

◆◆ 研修報告 ◆◆

ゆうらいふ外部役員に講師をお願いし 自主参加形式の研修会を実施しました

【第1回】 8月26日(金)
テーマ: 「組織運営で大切なこと」
講師: 則本和弘氏(監事)

組織運営で大切なこととして「報・連・相」が挙げられます。話しを聞き、
①情報は自分から取りにしているか
②情報が重要か重要でないかを自分で決めてしまっていないか(相手が決めること)
③相手の力量をどこまで理解できているか
の3つの点で反省し対応が必要だと感じました。
自分から相手に歩みより、相手の想いを推し量ることが大切です。組織も「ケアマネジメント」も人と人とのコミュニケーションから発展していくことは共通しています。まず上記の3つについて意識して行動を変えていきたいと思いました。
(ケアマネジャー)

【第2回】 9月21日(水)
テーマ: 「お金は信用」
講師: 吉田郁雄氏(理事)



銀行の支店長・役員を歴任してこられた吉田氏。「知らずに」失敗したことから始めたプロとしての勉強、融資外交で「言った・言わん」問題を解消する「メモ術」など、仕事への向き合い方をお話いただきました。また、「人」を育て、共に成長することが気持ちの良い職場となることを、自身の体験談を交え紹介いただきました。
お金については「金利の動き」、「知っている人だけ得する申告制の税制度」、「自身の収支と将来の人生イベントを検討しながら人生設計を立てること」など分かりやすく教えていただきました。最後は、職員からの「どうしたらお金が貯まる?」の質問にも答えていただきました。
(事務局)

新入職員のご紹介

●2022年7月以降に入職された方です

★リハビリサポートゆうらいふ
橋本佐緒里さん(介護職)

リハビリサポートゆうらいふ★
田村ひとみさん(介護職)

★グループホームすいれん
小枝登美子さん(介護職)

保育所かりん★
山本恵子(調理・サポート)

★小規模多機能 花梨
松宮和子さん(サポート職)

リハビリサポートすいれん★
松田美裕紀さん(介護職)

★リハビリサポートゆうらいふ 力を合わせてまいります!
堀出美代子さん(事務) よろしくお願いたします

専門職によるコラムコーナー プロフェッショナル リレーコラム

Vol.17

介護職員
いなば はるか
稲葉 遥



小規模多機能 花梨で働き始め1年と少し経ちました。今まで介護職の経験はほぼなく、小規模多機能というサービスも初めてで戸惑いもありましたが、朝のお迎えにいくと笑顔で「おはよう!」から始まり、夜勤ではお泊まりの方と「おやすみ、また明日」と笑顔で終わるこの仕事がとても好きです。看取りも何回か経験をさせて頂き、最期まで自宅で過ごしたい、という利用者様とご家族の願いを職員一丸となってサポートするのも小規模多機能の良さだと感じています。

私は普段休みの日は外に出ずゲームばかりしているのですが、利用者様とお散歩したり編み物や料理など普段自分ではしない事し、沢山の事を教えて頂いたりとても毎日がわくわくで楽しく仕事が出来ています。これからも思いやりに溢れるケアワーカーをモットーに励んでいきたいと思っています。



バトンを渡した人: 殿城睦子さん(介護福祉士) 2022年7月号登場

特定非営利活動法人ゆうらいふ
事務局
守山市立田町 1231-4
TEL: 077-585-4070
【Web】 <http://www.youlife.ne.jp>
【メール】 info@youlife.ne.jp

ゆうらいふ ● 居宅支援事業所 ● デイサービス ● 総合事業 ● 事務局
〒524-0214 守山市立田町 1231-4 ☎ 077-585-4070

すいれん ● グループホーム ● デイサービス ● 保育所
〒524-0001 守山市川田町 1541-4 ☎ 077-581-4606

かりん
花梨 ● 小規模多機能型居宅介護事業所 ● グループホーム ● 事業所内保育所(認可)
● ナースステーション ● ヘルパーステーション ● 定期巡回・随時訪問型訪問介護看護
〒524-0214 守山市立田町 4135-1 ☎ 077-599-0531

ゆうらいふ通信

2022年10月発行



敬老の日に合わせて、9月に100歳のお誕生日を迎えられた利用者様を皆さんでお祝いしました。

トピックス

ゆうらいふの取り組みや、各事業所の活動、介護の情報など配信中です!

Find us on Facebook

- 理事長あいさつ / 『憩い』最新情報
- ゆうらいふトピックス
- エッセイ
- 新入職員紹介
- コラム「プロフェッショナル」など

ごあいさつ

理事長 山田 亘宏



(写真 / 『序の舞』上村松園)

蒸し暑かった夏が終わり、やっと秋がやってまいりました。『らいふステーション憩い』を開設中です。建築資材の高騰と入荷遅れが重なり、1月1日(元旦)付の認可となります。正月4日に開所式を行い、サービス提供を開始したいと進めております。

『憩い』の建物は木材造りです。小規模多機能サービスを中心に、4月からはケアマネ部門(相談)と共に、訪問部門(看護・介護)を一体化して在宅での暮らしを支えていく拠点となります。1階には地域交流スペースを設けることから、想像したより大きな2階建てになっています。2階からは、東に三上山・西に比叡山が眺望できるよう設計しています。太陽光発電・電気自動車の導入等、CO2削減と電気料金低減を図ります。

建物の内部の壁は、日本画を中心に掲げていきます。現在作品を収集中です。例えば上村松園氏・錦木清方氏・平山郁夫氏などを考えております。市内の画家の作品も掲げて参ります。

「老人憩いの家」を引き継ぐ気持ちを抱き運営してまいります。よろしく、ご愛顧のほどお願い申し上げます。

働く仲間を募集いたしております。資格は問いません。勤務時間は相談に応じます。ご紹介して頂ければ幸いです。



「憩い」最新情報

工事が進んでいます

工事中ご迷惑をおかけし、申し訳ございません

▼壁ができました



担当者が決まりました

憩い事業部 部長
らいふステーション憩い 所長
津田 征志



副所長
河辺 恭子

地域の皆さんが「憩い」える
馴染みの場所を目指します

ケアマネジャー
秀熊 有里



▼天井高に吹き抜け・中庭ととても明るく開放的です



▲窓の外は田んぼと守山の町並み
その向こうに三上山が望めます



ゆうらいふ トピックス

保育所かりん
発見いっぱいの散歩道!



間近で見るショベルカー、とんぼを捕まえたりカタツムリに触ったり、散歩道にはワクワクがいっぱい!

保育所すいれん 大きなキッチンカーがやってきた!

キッチンカーがすいれんの駐車場に登場! フルーツが添えられたアイスを注文し、皆で食べました。



“一日・一日を生き 生ききる このまちで♡”

専務 山田 登喜子



多くの方が人生最期の時を、どこで過ごそうかと考えるようになりました。私もその一人です。子供の世話にはなれない...介護施設?療養病院?お金は?医療・介護の制度が改正され我が家で最期まで暮らせるサービスが整ってきています。守山市は地域包括ケアの推進で医療・介護サービスが充実しています。病院・開業の医師も在宅診療を積極的に行っています。“我が家で安心して暮らせるサービス”が選べます。訪問看護・介護の定期巡回や通所・お泊り・訪問が一体化したサービス等、主治医の往診を利用し我が家で暮らしながら最期の時を迎える方も増えています。独居でも本人の意志で我が家で暮らせます。寝床やトイレは身体が覚えていて、我が家であれば自由に行動できます。入浴・着替え・食事・洗濯・掃除はディサービスと訪問介護の利用で安心です。緊急時は看護師が駆けつけます。県外からでも家族が月4~5日、また折に触れ来てくれます。お金がかからず気持ちよく暮らせるのは我が家です。私も皆様に学び、最期の時まで我が家で♡と人・物・お金の整理を心掛けています。

エッセイ



第13話 最期まで自分らしく天寿を全うした永遠の眠り姫 Kさん

2019年9月97歳で永眠

※ゆうらいふホームページ「エッセイ」より
(ご家族に承諾をいただき掲載しています)



初めてお目にかかったのは、Kさん90歳の時。40代で夫を亡くし、二人の子供を農家の主婦として気丈に育ててきた方。笑顔が素敵だった。息子夫婦と暮らし、お嫁さんの事は『さっちゃん』と呼ぶ。何でも言い合える本当の親子の様。訪問するたび『病院には行きたくない、ここで死なせて』と訴え、我が家での暮らしに満足されていた。

96歳になり訪問・通所・泊りが一体化したサービスを利用。本人・家族の安心と介護負担軽減で不安なく自宅で暮らせる体制を整えた。徐々に寝ている時間が長くなり“いつ何が起きてもおかしくない”状態を迎える。訪問看護の利用を勧めた。また家族は、最期まで診てくれるかかりつけ医への変更を決断。我が家で往診・訪問看護を受け穏やかな日々が続いた。

半年経ったころ、『いつも通り朝食を食べたのに、昼食時に見に行くと呼んでも返事をせず、意識がない。救急車を呼んだらいい?』と家族からの緊急電話。

看護師が駆けつけると、すでに深い眠りに。救急車を呼ぶ段になった時、家族が「やっぱり救急車は呼ばない。おばあちゃんはずっと、『ここで死なせて』と言っていた。かかりつけ医に往診をお願いしたい」とのこと。長男・長女の想いも一致し、往診を依頼。医師はすぐに駆けつけ「脳梗塞を起こしている。このまま何もしなければ身体の蓄えを使い、自然に最期を迎えるでしょう」と言われた。看護師とヘルパーが自宅を毎日訪問し、口腔ケア、着替え、清拭、家族の心のケア等を行った。2週間後にKさんは静かに息を引き取った。最期の時まで目を覚ますことなく、眠り姫のように天寿を全うされた。

Kさんとさっちゃん(嫁)の絆が、「救急車を呼び病院へ行く」のではなく「我が家で最期の時を」の願いを実現した。家族に見守られての最期を迎えられたのは、Kさんの意思を貫く強さと、その意思を支えた嫁(さっちゃん)の覚悟だと学ばせて頂いた。

【ケアマネジャー深田記】